



2025-2026絵本作家養成ワークショップ

- ① つまでたってもかわらない
- ② あいがなければはじまらない
- ③ よいこづくりが本ではない
- ④ ろうやただしさもうあきた
- ⑤ くでもないけどただきれい
- ⑥ けるうけないさておいて
- ⑦ とにかくそれでもやるしかない

絵本や児童文学を
書き(描き)たいと思っている人や
あるいは、すでに書き始めている人の中に
これまでの絵本・児童文学・童話講座に
飽きたらない方はいませんか
どんなふうにかくか、ということだけを
教わっても、作品は作れません
大切なのは
なにをかくか
そして
なぜ書こうとしているかという
もっと自分自身の深いところにある
何かを見つけだし
それと向き合うことじゃないでしょうか

このワークショップでは何も教えません
必要なことはすべて
参加されたみなさんが
みなさん自身の手によって
持ち帰っていただきたいと思います

自分がなぜ書きたいのか
何を書こうとしているのか
独りだけで考えていないで
自分とは違う
けれども同じように真剣に
創作に打ちこんでいる大ぜいの人たちと
時には作者としてまた時には読者として
話し合い、ぶつかりあいながら
見つけていってください

ここには刺激と出会いがあります

RESIDENT

□ レジデント(RESIDENT)とは何か

RESIDENTを英和辞典で引くと「居住者」と出ているはずです。でも、このワークショップでいうところの「レジデント」とはこの意味ではありません。実はこの言葉、アメリカの若手作家のためのワークショップ(クラリオン)からの借用なのです。クラリオンでは参加者は毎日自由に作品を出し、さらにそれぞれを互いに討論しあいながら進めていく、円卓会議式ディスカッションの方法をとって進められますが、そのディスカッションを盛り上げながら進めていく、逆にいえば、殴り合いになるのを防ぐ以外、何の権限も持っていない世話役を、レジデントと呼んでいます。そこで当「あとさき塾」でも、話し合いのあとさきを考え、参加されたみなさんの意見を引きだし、作家としての腕と、読者としての眼を磨き上げるお手伝いをさせていただく者をこう呼ぶことにしました。よろしくお願いします。

■ 土井章史 絵本ワークショップ

DOI Akihumi

フリーの絵本編集者。これまで300冊ちかくの絵本の企画編集に係わる。東京吉祥寺に小さな絵本の専門店とギャラリー「トムズボックス」の代表。編著に「長新太 ナンセンスの地平線からやってきた」(河出書房新社)がある。

絵本にとっても期待しています。絵本にいろいろな可能性を予感しています。絵本というメディアは、もっともっと広がるものと確信しています。編集者としてそんな絵本を一冊でも多く作りたいと思っています。絵本をもっともっと面白くしようと考えている方、こんな絵本もあるぞと提案してくれる方に来ていただきたい。そしていっしょに新しい絵本を作っていく、「あとさき塾」がそんな土壌になればと思っています。

■ 小野明 絵本ワークショップ

ONO Akira

編集者・エディトリアルデザイナー。企画や編集、デザインで600冊以上の絵本作りに参加。共著として「絵本をよんでみる」「絵本をよみつづけてみる」(ともに五味太郎+小野明/平凡社ライブラリー)「五味太郎のデザインワーク」(五味太郎+小野明/クレヨンハウス)「絵本作家になるには」(小野明+柴田こずえ/ぺりかん社)、編著に「100人が感動した100冊の絵本」「絵本の作家たち1・2」(ともに別冊太陽/平凡社)「絵本の冒険」(フィルムアート社)などがある。

絵本の楽しみは「描く」と「読む」だけではない。「制作する」という楽しみも自分で言うのもなんだが、なかなかのものである。作家に絵本を描く側としての衝動と自負があるように、私たち編集者や装幀家にも、絵本を制作する側としての判断と欲望がある。たぶん、個々の技術はすでに熟している。気がかりなのは、それが心も体もまるごと抱え込んだ「表現」としてなかなか出版されないことである。絵本の魅力と実力についてみなさんとじっくり考え制作してみたい。

特別講座

□ 特別講座の目的

プロの作家になる、そしてプロの作家であり続けるとはどういうことなのか。このワークショップに参加されるみなさんにとって、これは作品を書く(描く)技術以上に気になることであると思います。そこで「あとさき塾」では、通常のワークショップ以外に、実際に児童文学・絵本の世界の第一線で活躍中の作家の方々のお話をお聞きする特別講座を設けました。この講座を通して、それぞれの先生方がどのようにして作品と接していращやるのか、そこにあるこだわり、思い、悩み、自信などなど、本物のプロとしてやっていくためには何が必要なのかを感じ取っていただきたいと思います。

募集要項

ワークショップの会場は港区の外苑前にある「ギャラリーハウスMAYA2」です。

絵本ワークショップ募集人数

25名。

応募の資格

事前に提出いただいた作品によって、オーディションを行います。

年齢、経験は一切問いません。

プロの作家をめざしている人を望みます。

応募の方法

8月30日(土) 到着分まで。作品に申し込み用紙を添付のうえ、発送搬入または持参ください。応募封筒の宛先を「トムズボックスあとさき塾係」として下さい。

▽▽ 申込書

最終ページにあります。

▽▽ 作品郵送先

トムズボックス

〒167-0042 東京都杉並区西荻北3-11-16

電話：03-5303-9737

E-mail：office@tomsbox.co.jp

参加料（絵本ワークショップ）

ワークショップ18回＋特別講座6回の計24回

100,000円

（教材費等の実費は含まれません）

応募作品

手作り絵本一冊。あるいはイラストなどの作品5点。

（写真、立体、布などの作品形式は問いません。）

既に発表した作品でも結構です。

（作品の返却を希望される方は、返送用の封筒と切手または着払い伝票を、住所・氏名を記入したうえ、同封して下さい。返送用の封筒のない場合、作品はオーディション終了後、処分させていただきます。）

オーディション結果の通知

9月12日（金）までに、結果をお知らせいたします。

スケジュール

ワークショップは19:00から22:00まで。
特別講座は14:30から16:30まで。

絵本ワークショップ		特別講座
19:00から22:00まで	2025年	14:30から16:30まで
	9月	23(日)特別講座【1】
2(木) 9(木) 30(木)	10月	
13(木) 27(木)	11月	
11(木) 25(木)	12月	20(土)特別講座【2】
	2026年	
15(木) 29(木)	1月	31(土)特別講座【3】
12(木) 26(木)	2月	
12(木)	3月	28(土)特別講座【4】
	4月	
14(木) 28(木)	5月	23(土)特別講座【5】
11(木) 25(木)	6月	
9(木) 23(木)	7月	25(土)特別講座【6】

※通常の絵本ワークショップは、港区北青山（最寄り駅は「外苑前」駅）でおこないます。
※特別講座の日程は、流動的で変更があるかもしれません。



2025-2026

申込用紙

フリガナ ▼氏名	▼性別 男 女
▼生年月日・年齢 西暦 年 月 日生 歳	
フリガナ ▼現住所 ▼〒 — ▼E-mail @	
▼PHONE () ▼ FAX ()	
▼勤務先・学校名	
▼PHONE ()	
▼あとさき塾へのひとことがありましたらお書き下さい。	